

キサゴ *Umbonium costatum* (Valenciennes) (日魚) 喜佐古



ニシキウズ科 大きさは約 2.5cm。分布：北海道南部以南。

羽田空港浅場にて生貝 1 個体採捕 (2015 年 10 月 15 日)。初記録のため放流アサリに混入してきたものと考えられる。

キセワタガイ *Philine argentata* Gould (目八) 着綿



貝殻と胃板



薄い殻が体の中に埋まっている



写真左：1 回の貝桁操業で採捕されたキセワタガイ



キセワタガイ科 大きさは約 2cm。殻は薄質で軟体部に内在する。殻は半透明白色、石灰質の胃板が 3 個ある(捕食した餌をすり潰す役割)。分布は北海道以南。

キセワタガイが 1g 増重するのに必要なアサリの稚貝捕食数は、殻長 1mm で 20,000 個体、2mm で 2,500 個体、4mm で 500 個体、8mm で 50 個体であり、アサリにとって強力な捕食圧をかける。産卵は、春から夏にゼリー状の房になった卵塊を産む。

＊瀬川直治・菅沼光則(1996 年) 漁場および飼育にみる捕食者キセワタと被捕食者アサリの関係について(愛知県水試研究報告 3 号)

名前の由来は「菊の被綿(きせわた)」。重陽の節句(9月9日)の行事で、前夜、菊の花に綿をおおって、その露や香りをうつしとり、翌朝、その綿で身体を拭くと長寿を保つ(広辞苑)。この真綿のような軟体部の下に貝殻が透けて見えるイメージ。名前は優雅だがアサリの天敵である。

クボガイ *Chlorostoma lischkei* Tapparone-Canefrii

(目八) 久保介



羽田空港D滑走路テトラポット上の生息状況

(クボガイ：円錐型茶色の貝、黒色はムラサキイガイ)

ニシキウズ科 大きさ約 3cm (殻高)。殻形は円錐型、螺層に多数の斜めの縦肋、殻色は黒茶色、殻は堅固。蓋は円形多旋、茶褐色の角質。分布は北海道南部以南、潮間帯～潮下帯に生息する。

磯もの：酒の肴。茹でて、針などで身を取りだしながら食べる。伊豆大島ではメッカリと言ひ、民宿ブームの 1970 年(昭和 45 年)には約 440 万個体(31 トン)が漁獲された。

＊西村和久(1978) 伊豆大島のクボガイ類について ひたちおび 10